

学校だより

芝っ子

令和7年3月14日
松本市立芝沢小学校



一人ひとりが主役 祝 ご卒業

6年生69名に合わせて、“70”から始まった卒業式までの登校日数カウントダウンは、今日で“1”となりました。3学期に入って、卒業式に向けた歌声があらこちから聞こえてきたり、6年生を送る会の発表に向けた練習の声が聞こえてきたりなど、全校の子どもたちがお世話になった6年生に感謝の思いを寄せ、学校中がやわらかな空気に包まれていくのが感じられました。



6年生は、今年、“芝っ子レンジャー”を立ち上げ、全校のみんな、一人ひとりが主役になって児童会活動に取り組もうと、リーダーとして立派に指揮を執って進めてきてくれました。交流や集会を柱に、さまざまなイベントを企画・運営し、全校のみんなが楽しく、仲よくなるように努めてくれました。

卒業式は、5年生が児童を代表して参列しお送りします。69名の卒業生に今後の飛躍を祈念したいと思います。

ありがとうという感謝の気持ち ～3学期終業式校長講話より 抜粋～

今日の校長先生のお話ですが、「ありがとうという感謝の気持ち」というテーマでお話しします。

今年度の「6年生を送る会」も各学年が6年生への「感謝の気持ち」がよく表れた会となりました。

3年生は、学ランをまとい、応援団に扮して、6年生に精一杯のエールを贈ってくれました。2年生は「音楽会」に關してのクイズを6年生に出題しました。6年生が思い出を振り返りながらじっくりと考えて〇×で答えていました。1年生は、「思い出のアルバム」の歌詞を作った歌の発表から、一緒に行ったSAMのプール、そうじ、おにごっこなどの交流活動を通して、改めて6年生が1年生にとっての、ヒーロー・ヒロインであることがよく伝わってきました。

4年生は今年度一年間、芝沢小のために大活躍してくれたレンジャーに扮して「児童会」の活動を振り返り、6年生を讃えてくれました。そして、5年生。「6年生を送る会」の周到な計画・準備、そして当日の丁寧かつ段取りの良い司会進行の態度や様子から、先日の児童総会、準備児童会に続き、6年生から芝沢小学校のバトンを受け継ぎ、「任されました。後を受け継ぎます」という感謝と決意の気持ちの強さを大いに感じ、頼もしく思いました。

最後に、6年生。最後に全校へのお返しとして全員で合唱してくれた「絆」。6年生の優しく温かな、そして別れの寂しさが詰まった歌声が体育館の中に響いていました。

次に、学校目標「学び きたえる やさしい子」について、特に「やさしい子」について、改めて振り返り、考えてみましょう。今年度は、児童会が中心となって「姉妹交流」に重点的に取り組んでくれました。一緒に遊ぶ、掃除をする、給食を食べる、読書をするなど、さまざまな活動を通じて交流を深めることができました。6年生は1年生だけでなく、他の学年や保育園の皆さんとも積極的に関わりました。5年生は「くれき野生産組合」の皆さんをお招きし、「感謝の会」を開催しました。4年生は保育園の皆さんや地域のお年寄りの方々と交流し、先日は保護者の皆様や地域の方々をお招きして、発表会兼交流会を行いました。3年生も1学期には地域に出かけ、公民館や地区の皆さんと触れ合う機会を持ちました。また、松本大学の学生さんも本校に来校し、ボランティア活動やビブリオバトル、体験授業を行い、多くの交流が生まれました。皆さんは、この交流を通してどのように感じましたか？ 人と関わることが苦手な人もいるかもしれませんが、私が皆さんの様子を見ると、交流の場では皆さんも、関わった相手の方々も、みんなが笑顔で楽しんでいる姿が印象的でした。

人は、相手のことを思いやり、その人のために行動すると、相手もその気持ちを受け取り、お礼の態度や行動で返してくれます。もちろん、時にはちょっとした行き違いで、けんかやトラブルになってしまうこともあるでしょう。しかし、それもまた大切な学びの一つです。「人間」という字は、「人の間」と書きます。人は一人では生きていけない存在です。しかし、人と人とが集まり、助け合い、笑い合い、支え合い、励まし合うことで、共に生きていくことができます。ぜひ皆さん、自分自身を大切にすることはもちろんですが、それと同じくらい、身近な友達や周りの人たちにも心を配り、声をかけることを大切にしてほしいと思います。